

LESSON 19

市民アンケートの自由記述回答（23件）をKJ法の手順に沿って整理しました。各回答の意図を抽出し、意味的に近いものを7つのグループに分類してタイトルを付けています。

1. 【生活に直結する切実な声】路線廃止・減便への強い不安と反対 高齢者や学生など、車を運転できない市民にとってバスは「死活問題」となっており、路線廃止や減便に対する強い危機感や反対意見が集まっています。

- ・ 免許返納後や高齢者の通院の足としてバスが不可欠である（No.1、No.19）。
- ・ 過去の減便で生活がすでに不便になっている（No.3）。
- ・ バスの廃止により、子どもの通学手段がなくなる（No.14）。
- ・ 東部沿岸地区など、廃止されると地域が孤立してしまう（No.11）。

2. 【利便性向上への要望】実生活に即したルート・運行ダイヤの改善 現在の公共交通が市民の生活動線や生活スタイルと合致しておらず、見直しを求める声です。

- ・ 保育園の送迎やスーパーへの買い物など、生活に密着したルート設定や朝の増便が求められている（No.4、No.7、No.20）。
- ・ バス停から遠い課題を解決するため、デマンド型交通（予約制バス）の導入を望む声がある（No.16）。
- ・ 時刻表が複雑で分かりにくく、遅延も発生しているため改善が必要（No.22）。

3. 【将来への投資】若者や定年後を見据えた公共交通の必要性 現在は主に車を利用している世代からも、長期的視点での公共交通の充実を望む声が上がっています。

- ・ 定年後や、子どもが大きくなった時の将来の移動手段として不安がある（No.8、No.10）。
- ・ 学生や若者が住みやすい街、人が集まる街にするために公共交通を充実させるべき（No.21）。

4. 【新しい移動手段】 自転車環境と多様なモビリティの整備 公共交通以外の新しい移動手段のルール整備やインフラ充実を求めるグループです。

- ・ 自転車レーンが未整備であったり中途半端であるため、安全に走行できる連続したレーンの整備が求められている（No.6、No.18）。
- ・ 電動キックボードの走行ルールの明確化や、若者向けのシェアサービスの導入が提案されている（No.6、No.12）。

5. 【自動車利用者の視点】 公共交通よりも道路・渋滞対策の優先 日常的に車を利用する市民からは、公共交通の維持よりも既存の道路インフラ改善を重視する意見が出ています。

- ・ 赤字のコミュニティバスに税金を使うよりも、道路整備に回してほしい（No.2）。
- ・ 朝の国道の深刻な渋滞を解消するため、バイパス整備などを優先してほしい（No.15）。

6. 【関連施策への意見】 駅前再開発に対する賛否と懸念 公共交通の結節点となる駅前の再開発に関する意見です。

- ・ 若者を呼び込むための活性化策として賛成する声がある一方、今の広場を残してほしいという反対意見もある（No.5、No.9）。
- ・ 再開発自体には無関心だが、一部の業者だけが儲かるのではないかという冷めた見方もある（No.17）。
- ・ 工事等によるバス停移動の際は、丁寧な案内が必要（No.9）。

7. 【行政への不満と要望】 情報発信の強化と市民との丁寧な対話 市の情報周知不足や、市民の声を反映しない行政姿勢に対する厳しい指摘のグループです。

- ・ コミュニティバスの存在や運行ルートが市民に十分に周知されていない（No.13）。
- ・ 路線廃止について十分な説明がなく、住民説明会の開催が求められている（No.11）。

- ・「アンケートを実施しても結果の報告がなく、何も変わらない」といった市政への諦めや不信感がある（No.3、No.17、No.23）。

これらの整理された結果をもとに、市への報告用としてより詳細なレポートやプレゼン用のスライド資料を作成することも可能ですが、作成しましょうか？